

マイナ一本化運用の停止を

紙議員

参院本会議でインボイスも中止迫る



批判し、「来年初の健康保険証廃止は中止すべきです」と迫りました。加藤勝信厚労相は「一本化」のメリットだけを強調し、「来年初に円滑に実施できるよう取り組んでいく」と国民の声を背向けました。

参院本会議で日本共産党の紙智子議員は通常国会最終日の6月21日、政策評価などの報告について質疑を行い、国民の声を耳を傾けない岸田政権の姿勢をたどしました。

紙議員は、今年10月に実施が狙われているインボイスについて、免税事業者への増税が倒産、廃業に追い込むことにつながると指摘。中小業者や農家、文化人らが反対し、

オンライン署名は20万人を超えたとし、生業、暮らし、文化を壊す増税の中止を求めました。

また東京電力福島第1原発

事故による汚染水の海洋放出について、福島と茨城の漁連会長が改めて「反対」の意思を示したことや、政府が「関係者の理解なくして、いかなる処分もおこなわない」と約束したことを守るよう求めた、いわき市議会の意見書を

示し、海洋放出方針は撤回すべきとたたきました。西村康稔経産相は海洋放出ありきの風評被害対応を列挙するだけで、方針撤回に言及しませんでした。

廃線にトロッコで町おこし

旧日高線活用で試乗会

苦小牧からも参加

廃線となったJR日高線の鉄路活用をめざす「浦河鉄路活用プロジェクト」(松山和

弘会長)が主催する「トロッコ試乗会」が6月24日、浦河町の旧日高線別荘で開催されました。苦小牧から、「JR

問題を考える苦小牧の会」(小野寺正夫代表)のメンバー9人が駆けつけました。

午前中は、トロッコ操作講習を受け、午後に「試乗会」が行われました。



JR北海道から譲り受けた故障した状態で旧浦河駅に保管されていたトロッコは、現在新得町で修理中のため、今回の試乗会は「狩勝高原エコトロッコ鉄道」からの代車で

生業と暮らしを守るために インボイス 実施中止を 日本共産党

実施。自転車こぎのような2人乗りトロッコでは、2000ほどの線路を往復し、結構疲れます。ガソリンエンジンのトロッコは、乗客4人乗りで時速20+程度で走り、わずかな距離でもハマナスの群落のなかを風を切って走り、スピード感を満喫しました。

8月の浦河港まつりには、旧浦河駅での試乗会が企画されており、「トロッコで町おこしを」とのプロジェクトチームの並々ならぬ熱意意気込みが伝わっています。

同プロジェクトは、町内に残る線路の再活用策の一つとしてトロッコの運行をめざしています。海を見ながら走るトロッコは国内にはなく、他とは違う大きな魅力を備え、トロッコを運行する場所として印象がとても良いと言われています。

ほんの紹介

▼性教育バッシングと統一協会の農 浅井春夫著(新日本出版社) 1980円(税込)
統一協会が性教育を目の敵にする、その歪んだジェンダー観の理由と影響を読み解きます。人間の尊厳を守ってきた統一協会との闘いを報告。



こんな北海道に
誰がした

国会かけある記 はたやま和也

初夏の日差しを受け、水田や麦畑を脇目に道内をまわっています。先日は当別町で農家のみなさんと、トラクターを前に語りあいました。

さわやかな天気とは逆に、農家の苦しみは深い。水田から麦などに転作してきた農家からは「5年に一度は水を張ること」という水田活用交付金の見直しに「はしごを外された」と悲鳴があがっています。交付金がなければ機械などの支払いはどうするの。今後のことが頭から離れない」という、若き農家さんの言葉を重く受けとめました。



農家のみなさんと懇談(22日当別町)

酪農家は、飼料だけでなく電気料金の値上がりまで重なり瀬戸際そのもの。せっかく搾った牛乳を廃棄したり、産まれた子牛の殺処分などが迫られています。子牛を好んで処分する酪農家がどこにいて言うのでしよう。外国からの乳製品輸入をやめない農政が、本当に腹立たしい。

地域での人口減少は、医師や看護師、介護や福祉、運輸・交通など人手不足につながり、第一次産業もギリギリの状態です。こんな北海道に誰がしたのか。社会保障や中小企業・農林漁業よりも、大企業応援・軍事費拡大に税金を費やした自公政治の責任そのものではないでしょうか。

石狩市で街頭宣伝を終えた途端に、駆け寄って「聞きたいことがある」と大声をあげた方がいました。聞くとマイナバーカード問題に怒っているとのこと。自民・公明とともに進めた維新・国民民主の責任も重い。本当の改革を訴える日本共産党の出番です。

島山和也(はたやまかずや)日本共産党元衆議院議員

「加齢による難聴者への補聴器購入に助成を求める署名」にご協力をお願いします。